

## SB軽量ねぎ培土/多連結式トレイ(448穴)使用時資料～たまねぎ育苗～

### >製品特長



たまねぎ育苗写真Ⅰ

- (1) 基本的には多連結式トレイを使用しても育苗可能な培土となっております。
- (2) 原料に固化剤を使用しておりませんので、下記『育苗方法別特長』  
～SB軽量ねぎ培土推奨～を参考に育苗をお願い致します。
- ▶ 機械適性を向上させておりますが、播種時に調整が必要な場合がありますのでお困りの際には播種機販売店への調整依頼及び事前に少量お試しの上で播種が可能な事をご確認頂いてから本格的にお使いください。

### >慣行育苗と多連結式トレイ 育苗の違い



たまねぎ育苗写真Ⅱ

- (1) 慣行育苗の定番である地床育苗では、ばら撒き播種、播種機、シードテープ 1m当り60本程の苗立ちで、55日～60日葉切りせず定植まで育苗を行います。
- (2) 多連結式トレイ育苗では、ばら撒き播種とは異なりトレイ1穴に1つのコート種子を播種し育苗する事によって、苗のバラつきを抑えるとともに根鉢が短い期間に形成されることから圃場への定植もばら撒き播種より早い時期で可能となります。トレイ育苗時、育苗後半に苗が重なり葉が倒伏するケースが見られる場合は、葉切りを行いこれを調整します。
- ▶ 使いやすく改良されたねぎ培土やセル培土を用いての育苗は水管理しやすく、より良い苗を短期間で仕上げる事が可能となります。

### >多連結式トレイ育苗方法別 特長

#### 👉 大きく2つの育苗方法があります。

- (1) トレイを直接、置床に置きトレイ下部穴から根を地面に張らせ苗を大きくする方法。  
直置きの特長は葉鞘径が太く地上部が重くなる事ですが、最終的にトレイ内で根鉢を形成しない為、育苗完了時に根を切る事になり根重が少なくなります。

#### ～SB軽量ねぎ培土推奨～

- (2) トレイをベンチ等にかけて根をトレイ外に出さず根鉢形成させる方法（一般的推奨）  
一般的に葉鞘径は細くなりがちですが、発根量は多くなります。  
当社では多連結式トレイ育苗においてもセルトレイ育苗同様、ベンチ育苗を推奨しております。

#### ▶ 葉切りについて（例）

培土には育苗期間中、必要な肥料が予め配合されております。  
但し、育苗期間によっては葉が伸びすぎる事で苗がムれる原因となったり、灌水時に倒伏しやすくなることもあります。その際、剪葉を行い、これを改善することもできます。

SB軽量ねぎ培土/多連結式トレイ(448穴)使用时資料～たまねぎ育苗～

＜たまねぎの一般的な育苗のポイント＞



たまねぎ育苗写真Ⅲ

- (1) 適性時期より早まきを行う事でとう立ちしやすくなる原因となります。  
地域と品種にあった適正時期に播種を行います。
  - (2) 育苗において灌水は重要です。培土を必要以上に乾かさなかつ灌水のしすぎに注意が必要となります。  
(一般的にセルトレイ専用開発された培土は水持ちが良い傾向にあります。)  
**※管理不足は苔やカビ、苗ムレ発生の原因にもなります。**
  - (3) 定植時は根鉢の形成を確認し、なるべく根を切らず痛めないよう、植え付けを行います。
  - (4) 高温期の播種についてはハウス内が高温にならないよう遮光資材などでハウス内の温度を下げ発芽までの約1週間は培土を乾かさなかつ注意を払い、場合によっては被覆資材等で乾燥を防ぎます。
  - (5) たまねぎの一般的な発芽温度は15℃～25℃ 育苗適温は15℃前後のやや低温を好みます。  
**※管理は品種によりますので近隣の指導に準じた育苗をお願いします。**
  - (6) 多連結式トレイを使用する場合は床からはなして育苗してください。(当社推奨)  
直接床に置いての育苗は根鉢形成を行うエアブルーニング効果を減らすものとなり根鉢の形成ができにくくなります。
- ▶ 多連結式トレイ取れ枚数目安
- ・多連結式トレイ448穴：約10枚
- ※はじめてお使いの場合は必ず少量で播種適用テストをお願い致します。**